

事あり一偏に記さるる

芥田貞運曰酒井雅樂院後醫家按三代実録曰
貞觀十三年大物忌神社在飽海郡山上云々
社家旧記曰大同元年奉遷大物忌大神吹
浦村云々此二説相齟齬然国史之所載
不可誣社家舊記亦不可棄也列国諸山
之神社遷山下皆大同以後多浮圖者所
爲也於是考之則大物忌神社亦大同元
年既可奉遷於吹浦村雖然世人惟知此
神爲鳥海山上之名神而人皆不言遷坐

於吹浦村是以国史只以世人所言之流
布之説記之乎云々国史の載るるも誣り
らば社家旧記も又棄へり云々といひてあ説
を急用するに古より例ある事なり云々年中
あ説を以て神祇長上より 天孝（元作）上
より事もありと云々板古例ありといふ事は
神代卷一書曰素戔嗚尊自天而降到於
出雲、鯀之川上則見稻田宮主篁狭之ハッ
箇耳女子號稻田媛云々其次一書曰是
時素戔嗚尊下到於安藝国可愛之川上